S-400 の対中輸出

人民網一軍事 20130528 07:58

ロシア媒体：もし S-400 型防空ミサイルを導入したならば、中国は釣魚島（尖閣諸島）空域を制圧することができる

人民網 5 月 28 日受信

ロシアの軍事評論網 5 月 27 日の報道は、もしロシアの射程 400 KM に達する S-400 型長距離防空システムを導入したならば、中国は弾道ミサイル迎撃能力や釣魚島（尖閣諸島）付近空域の制圧能力を保有するとともに、沖縄の米空軍基地の戦闘機を威嚇することが出来る、と述べた。

モスクワの”戦略と技術分析センター”の研究者ワシリー・カシンは、昨年、ロシアの官員が、中国側と S-400 防空ミサイルシステムの輸出交渉を行っていることを認めた。

カシンの分析によると、中国への S-400 の提供は 2017 年になる可能性がある。しかし現在、未だ関連する正式文書及び交渉の備忘録は出ていない。このほか、中国が S-400 を何セット購入する計画なのか不明である。またカシンは、S-400 のメーカーである”金剛石-安泰”会社は、ロシア国防部和一部の海外顧客から大量の注文を受けている、と述べた。

S-400 を装備すると、中国は、事実上、インド、日本及び米国の脅威に対抗することができる。専門家は、”S-400 を装備すると、中国は現在保有していない弾道ミサイル迎撃能力を保有することになる”と述べた。同時に中印間で新たな軍備競争を誘発するであろう。----インドは、現在主として弾道ミサイルで中国に対抗しているためである。このほか S-400 の導入によって中国は、釣魚島（尖閣諸島）付近空域の制圧能力を持つことになる。S-400 は、米国の F-22 や F-35 のような第 5 世代戦闘機の活動を有効に制圧することはできないとしても、沖縄の米空軍基地の戦闘機を威嚇することが出来る。

ワシントンの“2049 事業研究所”の研究者で中国軍事問題専門家のヤン・イーストンは、S-400 の改修によって新型防空システムが出現すると、米国は、X-47B 等の新型無人攻撃機の開発を促進し配備せざるを得なくなるであろう、と述べた。

彼は、” S-400 のような先進的防空システムが配備された地区に有人戦闘機を派遣することは極めて危険である。したがって半ば自主判断で行動できる無人戦闘機を派遣する必要がある” と述べた。

S-400 型防空ミサイルシステムは、ロシアの” 金剛石—安泰” 防空集団会社が開発生産し、主として政治、行政、経済、及び軍事の重要防護目標を効率よく防護するために用いられる。同システムは、火力及び電子対抗条件下、敵の航空攻撃、戦略、戦役戦術弾道ミサイル及び中距離弾道ミサイルの襲撃から防護することが出来る。また S-400 は、400 KM 以内で、最大飛行速度 4.8 KM/SEC の空中目標及び 60 KM 以内の非戦略弾道ミサイルを破壊することが出来る。大気圏内目標の最大殺傷高度は 27 KM であり、最小殺傷高度は 10 M である。S-400 は、同時に 72 目標を探知し、そのうち 36 目標を攻撃できる。行軍状態から戦闘展開までの所要時間は 5 分間である。

S-400 が中国に提供される時期は、今後ロシア軍への装備の進展状況によって決まる。S-400 のロシア軍防空部隊への装備は計画から大幅に遅れている。2015 年までにロシア軍が獲得できる S-400 システムは、6 個群 12 連隊以下であろう。計画の半分以下の 8 個連隊以下になる可能性もある。このような状況になった理由の一つにロシアの関連企業の生産能力不足がある。新たな生産工場の建設は始まったばかりであり、S-400 の生産問題を切り出す状況にはない。

その他、S-400 システムに使用される 40N6 型長距離ミサイル及び 9M96 型中距離ミサイルの試験は未だ終了していない。40N6 と 9M96 が完成しないと S-400 システムは完成しない。したがって大量生産のための主要な障害が除去されて初めて、システムの生産と装備の速度が上がることになる。

(範堯)

漢和防務評論 20130523

S-400 型地对空ミサイルの対中輸出の見通し

漢和平可夫アブダビ特電：

中国が求めているロシアの S-400 型地对空ミサイル交渉は、すでに何年も行われているが、ロシアは過去 4 年間、この問題に消極的であった。”我々は、まず自国ユーザーの求めに応じなければならない。また同時に知的財産権問題も考慮しなければならない”。少し前に、ロシア軍事工業界の権威筋はこのように述べた。しかし最近、中露の政治、軍事が接近し、SU-35 型戦闘機、LADA 型潜水艦の協力交渉が新たな段階に入るにしたがって、ロシアは S-400 の対中輸出問題で柔軟姿勢を見せ始めた。ニュースソースは”今まで中国は、S-400 に特別の興味を示していた。交渉は依然進行中であり、中国に多くの技術資料を提供しつつある”と述べた。

KDR は、「これは SU-35、LADA の最終交渉の結果によって決まる。今後の交渉で S-400 が中露の軍事協力協定で正式議案になる可能性はある」と考える。その理由は、ロシアの専門家によると、”中国の HQ9/FD2000 型長距離地对空ミサイルの射程及び技術レベルが S-400 に比べれば劣り、しかも航空エンジン、S-300PMU2、S-400 等の技術領域は中国が容易に真似できない”ためである。

S-400 の設計師は KDR に対して、”S-400 に使用するミサイルは各種のタイプがある。ロシア軍に提供する対航空機用 S-400 の最大射程は 380 KM に達する。同ミサイルは全く新しいエンジンと装薬を採用している”と述べた。

ロシア国防工業界が出版した以前の説明書によると、S-400 の最大射程は長年 240 KM となっていた。

以上